

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	江北町立江北小学校
1 前年度 評価結果の概要	・「学力の向上」については、校内研究を基軸として「だれもが分かりやすい授業」を目指して、授業の改善、職員の意識を共有した結果、「授業が分かる」に肯定的な回答をした児童が90％となり、成果指標を達成することができた。しかし、全国・県調査においては目標値に届かなかったため、基礎基本の徹底や、さらなる授業改善などの課題も残った。 ・「心の教育」「健康・体力づくり」「地域との連携」については、本来の活動を取り戻しつつ、行事精選の視点も入れて適切に実施することができた。特に「心の教育」における、教師の児童を認める姿勢については、校内研究でも意識したことから成果を得ることができた。今後も継続して実施していく。
2 学校教育目標	自ら学び、心豊かにたくましく生きる江北の子の育成
3 本年度の重点目標	「子どもが学ぶ幸せ」「保護者が通わせる幸せ」「教職員が働く幸せ」を感じる江北小学校づくり ①学ぶ楽しさを感じ、自ら進んで学び合い、高まろうとする子どもの育成 ②自己肯定感を高め、個性を発揮し、相手のことを考えて行動する子どもの育成 ③健康・元気で、きまりを守り、のびのびと活動する子どもの育成

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○基礎基本の徹底と校内研究を中心に授業を改善し、学力の向上を図る。	○「授業が分かる」「授業が楽しい」について「そう思う」「だいたいそう思う」という児童80%以上にする。 ○算数、国語の単元末テストにおいて期待平均点以上にする。	・テストなどの間違いは確実にやり直しをさせて、学習内容の定着を図る。 ・校内研究の充実を図り、授業を互いに見合うことで授業力向上・児童の学力向上を目指す。		・		・			学習部部长・主幹	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○互いの思いを伝え合う道徳科の授業づくりや体験活動、地域・家庭・中学校とのつながりを通して、心豊かにたくましく生きる児童を育成する。 ○正しい言葉遣いにおいて、肯定的な回答をした児童を90%以上にする。	・「考え、議論する」道徳科の授業を充実させる。 ・保護者の方や地域の方が参画できるふれあい道徳を実施する。 ・子どもの心を豊かにする時間「ハートタイム」を充実させる。		・		・		・	道徳主任	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○早期発見、早期対応に加え、いじめの未然防止と組織的対応に努める。 ○いじめの防止や対応に組織的に取り組んでいる職員を90%以上にする。	・「月のころ」アンケートの実施、「ころの相談ポスト」の設置を行い、定期的に実態把握に努め、その都度対応を行う。 ・週に1度、全職員で「気になる子」の情報共有を行い、全職員が児童理解を深めながら児童の対応にあたる。		・		・		・	教育相談担当	
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上にする。 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上にする。	・児童のよいところを学校生活全般で継続的に伝え、校内研究で授業を見合う中でも個別に伝えていく。 ・学校生活や行事ごとに児童にめあてをもたせ、めあて達成のための行動を考え、実行させていく。		・		・		・	主幹	
	○交流活動(異学年による縦割り活動)の充実 ・げんきグループを中心とした活動で、上級生は下級生に対する思いやりの心と上級生としての責任感をもたせ、下級生には上級生を敬う心を育てる。その中で協力することの大切さを味わわせる。	○げんきグループで「活動に進んで取り組んでいる」と答えた児童を80%以上にする。 ○げんきグループで活動する楽しさを80%以上の児童が感じられるようにする。	・げんきグループで、遊び活動を行う。 ・週に1度、げんきグループで掃除を行う。 ・げんきグループで体育大会の団を構成し、児童が自主的に活動できるようにする。		・		・		・	特活部部长	
●健康・体づくり	④「安全に関する資質・能力の育成」	④交通安全ルールを守って生活している児童を85%以上にする。	・交通安全教室など、交通安全に関する啓発活動を通して安全意識の向上を図り、生活安全の意識につなげる。		・		・		・	生活部部长 保体部部长	
	⑤「健康を考えて行動できる能力の育成」	⑤「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを自分の生活に生かしている」と答えた児童を80%以上にする。	・保健の学習を通して、生活習慣病やがんの予防、けがしたときの対処法などを学習し、児童自身の意識の向上を図る。 ・担任は栄養教諭や養護教諭と連携して、食や生活習慣についての授業を実施する。		・		・		・		
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(毎週金曜日)を設定し、時間外勤務の削減を図る。 ・年次有給休暇を計画的に昨年度実績以上とるように呼び掛ける。		・		・		・	管理職(教頭)	
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実	○全ての職員が、児童の特性や困り感を理解できるように努め、よりよい手立てを考え支援する。「適切な手立てを考え支援している」と答える職員を90%以上にする。	・生活指導、教育相談および外部関係機関との連携を図り、ケース会議等で児童の支援体制を強化する。		・		・		・	特別支援コーディネーター(支援部)	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目											
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○地域との連携、幼保・小中の連携	○地域との連携の推進	○「江北つ子応援団」などの地域の団体を活用した活動を年2回以上実施する。	・児童の学習にとってより効果的な活動を計画し、外部人材の活用を積極的に図る。		・		・		・	主幹・教頭	
	○幼保・小中連携の推進	○小中連携活動を年2回以上実施する。	・コロナ禍後の小中連携の効果的な活動を計画し実施する。		・		・		・		

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	-------------